令和７年度採用
山梨県公立学校教員選考検査

中学校（保健体育）問題

「始め」という合図があるまで，このページ以外のところを見てはいけません。

注　　意

1　この問題は**４問３ページ**で，時間は**60分**です。

2　解答用紙は，**別紙**で配布します。**「始め」**の合図で始めてください。

3　**解答**は，それぞれの問題の指示に従って**解答用紙**に記入してください。

4　**「やめ」**の合図があったら，すぐやめて係の指示に従ってください。

5　**解答用紙を持ち出してはいけません。**

令和７年度採用　山梨県公立学校教員選考検査

中学校 保健体育

1　中学校学習指導要領解説「保健体育編」について，（１）～（３）に答えよ。

（１）　次は，「第２章　保健体育科の目標及び内容　第１節　教科の目標及び内容」の一部である。下の①～③に答えよ。

体育や保健の見方・（　ａ　）を働かせ，A課題を発見し，合理的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を（　ｂ　）として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに，（　ｃ　）な技能を身に付けるようにする。

(2) 運動や健康についての自他の課題を発見し，合理的な解決に向けて思考し判断するとともに，他者に（　ｄ　）力を養う。

(3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し，B明るく豊かな生活を営む態度を養う。

教科の内容は，体育分野と保健分野で構成されている。

体育分野は，運動に関する領域である「体つくり運動」，「器械運動」，「（　ｅ　）」，「水泳」，「球技」，「武道」及び「ダンス」の七つの領域と，知識に関する領域である「（　ｆ　）」の計八つの領域で構成されている。

保健分野は「健康な生活と疾病の予防」，「心身の機能の発達と心の健康」，「傷害の防止」及び「健康と（　ｇ　）」の四つの内容で構成されている。

①　ａ～ｇにあてはまることばを，それぞれ記せ。

②　下線部Ａについて，次の文のア～エにあてはまることばを，それぞれ記せ。

体育分野においては，各領域特有の特性や（　ア　）に応じた課題を発見し，運動に関わる（　イ　）原則や運動に伴う事故の防止等の（　ウ　）な知識や技能及びスポーツライフをより豊かにするための知識等を活用して，自らの学習活動を振り返りつつ，仲間とともに課題を解決し，次の学びにつなげられるようにするといった学習の過程を示している。

保健分野においては，個人生活における健康・安全の内容から自他の健康に関する課題を発見し，健康（　エ　）や知識を吟味し，活用して多様な解決方法を考えるとともに，これらの中から，適切な方法を選択・決定し，自他の生活に活用したりすることを示している。

③　下線部Ｂについて，次の文のオにあてはまることばを記せ。

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力，健康で安全な生活を営むための資質・能力としての（　オ　）及び健やかな心身を育てることによって，現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることである。

（２） 次は，「第３章　指導計画の作成と内容の取り扱い　２　健やかな体（第１章第１の２の(3)）」の一部である。下の①，②に答えよ。

> (3)　学校における体育・健康に関する指導を，生徒の発達の段階を考慮して，学校の（ a ）全体を通じて適切に行うことにより，健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に，学校における（ b ）の推進並びにA体力の向上に関する指導，安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については，保健体育科，技術・家庭科及び（ c ）の時間はもとより，各教科，（ d ）及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また，それらの指導を通して，家庭や（ e ）社会との連携を図りながら，日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し，生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための（ f ）が培われるよう配慮すること。

①　a～fにあてはまることばを，それぞれ記せ。

②　下線部Aについて，次の文のⅰ，ⅱにあてはまることばを，それぞれ記せ。

> 体力は，人間の活動の（ ⅰ ）であり，健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており，「(ⅱ)」を支える重要な要素である。

（３） 次は，「〔保健分野〕２　内容　(2)心身の機能の発達と心の健康　イ　思考力，判断力，表現力等」である。a～eにあてはまることばを，下の①～⑩からそれぞれ一つ選び，記号で記せ。

> 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し，疾病等の（ a ）を軽減したり，生活の質を高めたりすることなどと関連付けて，解決方法を考え，適切な方法を選択し，それらを伝え合うことができるようにする。
> 〈例示〉
> ・心身の機能の発達と心の健康における事柄や情報などについて，保健に関わる原則や（ b ）を基に整理したり，個人生活と関連付けたりして，自他の課題を発見すること。
> ・心身の機能の発達について，習得した知識を自他の生活に（ c ）したり，課題解決に役立てたりして，発達の状況に応じた健康を保持増進する方法を見いだすこと。
> ・欲求やストレスとその対処について，習得した知識や技能を自他の生活と（ d ）したり，活用したりして，心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択すること。
> ・心身の機能の発達と心の健康について，課題の解決方法とそれを選択した理由などを，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，（ e ）を立てて伝え合うこと。

①　適用	②　共有	③　筋道	④　負担
⑤　規則	⑥　リスク	⑦　照合	⑧　概念
⑨　計画	⑩　比較		

２　次の（１）～（３）に答えよ。

（１）　バルソビアナポジションからのパートナーチェンジがあり，滑らかなパートナーチェンジとともに，軽快なステップで相手と合わせて踊るフォークダンスを何というか，記せ。

（２）　ハンドボールの試合を始める時や，相手に得点を決められた後の試合を再開する際に，センターライン中央からボールを投げることを何というか，記せ。

（３）　バドミントンにおいて，ネット際から，ネット上部ギリギリを越えて相手コートのネット際に落とすショットを何というか，記せ。

３　次の（１）～（３）に答えよ。

（１）　単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり，作成すべきものを二つ，記せ。

（２）　武道「剣道」の学習で，「しかけ技や応じ技を身に付ける」ための練習方法を二つ，記せ。

（３）　保健分野の指導に際しては，自他の健康に関心をもてるようにし，健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うことが大切である。その指導方法の工夫として考えられる具体例を二つ，記せ。

４　次の（１）～（４）について，それぞれ簡潔に説明せよ。

（１）　スポーツ基本法

（２）　一酸化炭素中毒

（３）　水泳の事故防止に関する心得

（４）　薬物乱用

令和７年度採用　山梨県公立学校教員選考検査

中学校保健体育　解答例

1	（1）	①	a	考え方	b	一体	各２点
			c	基本的	d	伝える	
			e	陸上競技	f	体育理論	
			g	環境			
		②	ア	魅力	イ	一般	各３点
			ウ	科学的	エ	情報	
		③	オ	実践力			３点
	（2）	①	a	教育活動	b	食育	各２点
			c	特別活動	d	道徳科	
			e	地域	f	基礎	
		②	i	源	ii	生きる力	各３点
	（3）	a	⑥	b	⑧	c ①	各２点
		d	⑩	e	③		

2	（1）	オクラホマ・ミクサー（ミキサー）	（2）	スローオフ	各３点
	（3）	ヘアピン			
3	（1）	・単元の目標を作成する。 ・単元の評価規準を作成する。 ・「指導と評価の計画」を作成する。 等			各６点 （各３点×２）
	（2）	・かかり練習（かかり稽古） ・約束練習（約束稽古） ・自由練習 ・簡易な試合 ・技の動きを正しく行えるようにするための練習 ・体さばきや竹刀操作を用いて相手の構えを崩したり，相手の打突をかわしたりして打突できるようにするための練習　等			
	（3）	・生徒の内容への興味・関心を高めたり，思考を深めたりする発問を工夫すること。 ・自他の日常生活に関連が深い教材・教具を活用すること。 ・事例などを用いたディスカッション，ブレインストーミング，心肺蘇生などの実習，実験，課題学習を取り入れること。 ・必要に応じてコンピュータ等を活用すること。 ・学校や地域の実情に応じて，保健・医療機関等の参画を推進すること。 ・必要に応じて養護教諭や栄養教諭，学校栄養職員などとの連携・協力を推進すること。　等			
4	（1）	・２０１１年に制定。全ての人が生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることを目指す，スポーツ推進の基本的な法律として，スポーツの基本理念を定めたもの。			各４点
	（2）	・一酸化炭素が体内に入ると赤血球中のヘモグロビンと結び付くため，体の組織や細胞が酸素不足になり，頭痛やめまいが起こり，意識がなくなって死に至ることもある。			
	（3）	・自己の体力や技能の程度に応じて泳ぐこと。 ・無理な潜水は意識障害の危険があるため行わないこと。 ・溺れている人を見付けたときの対処としての救助の仕方と留意点を確認すること。 ・自己の体調の変化に気を配ること。 ・用具や場所の安全に留意すること。 ・プールや用具に関する取り扱い方，練習場所に関する安全や体調に留意して運動すること。　等			
	（4）	・医薬品などの薬物を病気の治療などの本来の目的から外れた用法・用量で用いたり，医療目的では用いない化学物質などを不正に使用したりすること。 ・幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすことや，薬物の連用により依存症状が現れ，中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きること。 ・個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく，社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため，暴力，非行，犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこと。			